

蔵出しお宝ニュース

— 第 29 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。

本紙では、資料館内で長く眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

生涯学習フェスティバル 無事閉幕

平成 25 年 10 月 26 日（土）・27 日（日）に毎年恒例の賑やかな行事・三原市生涯学習フェスティバルが開催されました。中央公民館や三原リージョンプラザを中心に各施設趣向を凝らした催しが盛りだくさんでしたが、資料館では 1 階ロビーにて無料体験コーナー「甲冑・打掛を着てみよう！」を 10 時から 15 時まで行いました。当日は三原の甲冑隊・三原二之丸会の皆さんと、市民学芸員有志のお手伝いがありました。大変お世話になりました。



2 日間で甲冑を 132 名、打掛を 91 名が着用されました。「一度着てみたかった！」という男性や、「お姫様みたい。お母さん写真を撮って！」と喜ぶ女の子など、終始盛り上がりました。当日は甲冑を 2 領用意しておりましたところ、歴史好きな男の子が大変興味があったようで、順番に 2 領とも着用して下さったのがうれしかったです。

また、正面玄関前にて大餅つき大会を 3 回行いました。ボランティアのご協力があり、1 回に約 100 個分のお餅をつき、きなこ餅にして来館者に無料配布しました。手作りのため、もち米の蒸し加減や、つき加減が回によって微妙に変化が見られるのがおもしろいものだなと思いました。

現在では家庭での餅つき風景がなかなか見られなくなってきました。今後も三原を中心とした民俗文化の継承・紹介に努めて参りたいと思います。

（写真）「甲冑・打掛を着てみよう！」と
大好評の大餅つき大会の様子



三原城を築く際に使われた“シダ” 見つかる



(上) 中之町付近で刈り取られ、三原城を築く際に用いられたシダ

おき どこ しゅん じゅう
置 床 春 秋



掛物 亀太郎 画
木守図

収穫を終えた柿の木に、1つだけ柿を残します。この柿を木守と言い、来年の豊作を祈念するものです。また、野鳥のために残しているとも言われています。

花入 唐銅鶴首
花 季のもの

永禄 10 (1567) 年、小早川隆景が三原城を築きました。三原城は沼田川河口の三原湾にあった大島・小島を軸に周りを埋め立てて造られたため、城より南は瀬戸内海でした。日本で最初に築かれた海城といわれており、満潮時に眺めると海に浮いたように見えたことから、別名「浮城^{うきしろ}」と呼ばれています。

このたび資料館整理中に、箱に収められたシダの葉のかたまりが見つかりました。葉はカラカラに乾燥していましたが、実はこのシダ、三原城ゆかりのシダだったのです。

『三原市史 第三巻』によると、昭和 48 (1973) 年、駅前再開発事業が行われた一帯は本丸南側の二之丸で、この工事の時、地下約 3 メートルのところまで一面にシダが出土したことから、砂浜に約 2 メートルの厚さにシダ類を重ね、小石や土を載せてシダを約 20 センチの厚さに圧縮して、その上に石垣を築く工法が用いられたことがわかりました。シダの上に松丸太が並べられ、その上に石積みが行われました。シダ類は中之町付近の山野から刈り集めたものと考えられます。

駅前再開発事業が行われた当時の状況をご存知の方にお話を伺うと、出土した際には葉が青々としていましたが、空気に触れたことですぐに枯れ始めたそうです。膨大なシダが出土し、その一部を箱に納めて資料館に預けられたとのことでした。長らく所在が判然としていませんでしたが、このたびの発見で、その方も当時の思い出をうれしそうに語っておられました。

今後、このシダも資料館内で紹介したいと考えています。

発行 平成 25 (2013) 年 11 月 14 日
〒723-0015 三原市円一町二丁目 3 番 2 号
三原市歴史民俗資料館

TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。